「コンクリート工学年次論文集」
和文論文・報告執筆要領

公益社団法人　日本コンクリート工学会

1. 本執筆要領の対象

コンクリート工学年次論文集に掲載を希望する和文による「論文」・「報告」は，本執筆要領にしたがって執筆・提出しなければならない。

［注］英文による場合は，英文執筆要領にしたがうこと。

2. 著作権の譲渡

掲載された「論文」・「報告」の著作権は，日本コンクリート工学会に譲渡するものとする。ただし，著者本人が複製（複写，転載）することは妨げない。なお，全文を他の書籍や雑誌，ウェブサイト等に掲載する場合は，本学会に事前に通知すること。

また, 著者が複数の場合は, 著作権譲渡について投稿者が他の著者全員の許可を事前に得ておくこと。

3. 論文と報告の区分

(1)　「論文」とは，コンクリート工学に関する最近の研究成果について，目的，方法，結果，考察，結論等が明示されており，それだけで完結しているものをいう。学術的または技術的に価値があり，原則として未発表のものに限る。

(2)　「報告」とは，技術的価値の高い工事報告，資料として有用性の高い調査報告，さらには，設計，施工，構造および材料等に関する最新の技術開発等の成果報告をいう。原則として未発表のものに限る。

4. 題目と著者名

原稿提出後の題目，筆頭著者および連名者（順番の変更も不可）の変更は認めない。ただし，査読委員会から題目の変更を求められた場合はこの限りではない。また，著者の全体数は 4 名以内とし，連名者は会員外でもよい。

5. 論文・報告の内容

(1)　研究の目的を「**はじめに**」等に書き，得られた主な成果を「**結論**」あるいは「**まとめ**」等に書くこと。

(2)　「論文」は，本執筆要領を満足したもので，主として以下の項目のいずれかに該当するかどうかに重点をおいて，査読者 3 人の査読報告をもとにコンクリート工学年次論文査読委員会が審査を行い，採否を決定する。

(a) 研究の対象に新規性があり，今後の発展性がある。

(b) 研究の内容・手法に独創性があり，新規性が認められる。

(c) 現象の解明に貢献している。

(d) 内容に総合性，普遍性があり，かつ工学上有用である。

(e) 計画，調査，設計，施工などに取り入れる価値がある。

「報告」は，本執筆要領を満足したもので，主として上記の(e)および以下の項目のいずれかに該当するかどうかに重点をおいて，査読者 3 人の査読報告をもとにコンクリート工学年次論文査読委員会が審査を行い，採否を決定する。

(f) 内容に総合性があり，工学上有用である。

(g) 技術的な検討結果に新規性があり，今後の発展性がある。

(h) 困難な技術的問題を克服したプロセスおよび結果が報告されている。

(3) 「論文」・「報告」ともに適当でないと判定されるものには，次のようなものがある。

(ア) 執筆要領が守られていないもの。

(イ) 上記の「論文」あるいは「報告」の項目のいずれにも該当しないもの。

(ウ) 同一もしくは類似の研究発表が行われているもの。ただし，既発表の研究内容を前進させたものは，この限りでない（[**参考資料**]　**未発表・既発表に関する基本的な考え方**を参照のこと）。

(エ) 最終提出する最終原稿・修正原稿において，審査段階の「論文」あるいは「報告」原稿から，コンクリート工学年次論文査読委員会から指摘された事項以外に大幅な変更が加えられたもの，査読委員会から指摘した修正事項が満たされていないものや，修正したことにより適当でないことが明らかとなったもの。

(4) 使用材料・機器等の商品名の記述は，「論文」の場合にはこれを避けて，主成分，使用性能等を表す学術用語・技術専門用語等によって表現すること。また，「報告」の場合も可能な限りこれを避けて，商業宣伝に偏しないように注意すること。ただし，「論文」あるいは「報告」とも，解析ソフトの商品名を解析方法の説明に用いる場合など，論文あるいは報告の内容を説明するためには必要不可欠であり，かつ必要最小限の情報に関しては，その限りではない。

6. 原稿の体裁

(1) 原稿の形式は，A4 版（25 字×47 行×2 段）6 枚に図・表･写真が適切にレイアウトされた電子ファイルを，Adobe Acrobat DC（アドビシステムズ社）以降を使用し，全てのフォントの埋め込みをして変換した PDF ファイルとする。指定以外の変換ソフトを使用し，論文集の加工に不具合（PDF が開かない，図・表が崩れるなど）が生じた場合は，投稿者の責任とする。

(2) Acrobat Reader は，PDF ファイルに変換することはできない。

(3) PDF ファイルの容量は，2.0MB 以下とする。

(4) 原稿は，5 ページ目の両段 30 行以上 6 ページ以内とする。本文等が 5 ページ以内の場合でも，提出する PDF ファイルは，白紙ページを加え 6 ページとすること。

(5) WEB 論文集には，投稿画面上で PDF 化したファイルではなく，投稿者自身が作成したオリジナルにヘッダおよびフッタを追加した PDF ファイルが収録される。

7. 原稿の書式

原稿は，A4 サイズ横書き 25 字×47 行の 2 段組，余白を上 25mm，下 20mm，左 22mm，右 22mm として作成する。最後のページの文末は，左右の段を出来る限り揃えて終えること。詳細は，原稿書式の例を参照のこと。

本文の字体（フォント）は，**表－1** に示すものを使用し，色は黒，大きさは 9 ポイントとする。使用する句読点はカンマ「,」と句点「。」とする。その他の種類のフォントに関しては，PDF ファイル作成時の「フォント埋め込み」が正常に行えなく，パソコンの機種によって PDF ファイルの文字が正常に表示されない場合があるので，使用しないこと。

本文に使用してはいけない文字を，**表－2**（Windows の場合），**表－3**（Macintosh の場合）に示す。これらの文字を使用すると，パソコンの機種によっては，作成した原稿の PDF ファイルの文字が正常に表示されない場合があるので使用しないこと。また，半角カタカナ文字も本文に使用してはならない。

[**注**]　原稿提出後，1 ページ目右上に「コンクリート工学年次論文集, Vol.49, 2027」を，また各ページ下中央にページ数を事務局で一括して書き込むため，提出原稿のヘッダ，フッタ（原稿の上部お

よび下部の余白）にページ数，著者の名前等を一切記載しないこと。

表－1　本文に使用する文字のフォントおよび大きさ

		フォントの種類	文字の大きさ
本文	和文	MS 明朝	9 ポイント
	英文	Times New Roman	
	英数字の記載	Times New Roman, Symbol	

[注] 文字の色は黒とする。

表－2　原稿作成に使用してはいけない文字（Windows）

文字種類	本文に使用してはいけない文字																			
特殊文字	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ	Ⅹ	㍉	㌔	㎝	㍍	㌘	㌧	㌃	㌍	㍑	㍗
	㎉	㌦	㌢	㌫	㍊	㍻	㎜	㎝	㎞	㎎	㎏	㎠	㎡	〝	〞	№.	K.K.	TEL	㊤	㊥
	㊦	㊧	㊨	㈱	㈲	㈹	昞	大正	昭和	平成	≒	≡	∫	∮	Σ	√	⊥	∠	∟	⊿
	∵	∩	∪																	
	纊	褜	鍈	銈	蒀	垢	烋	昱	棈	鋹	曻	彅	丨	仡	仼	伀	伊	但	必	伎
	他	仲	伒	伝	伽	佃	佇	佖	佐	侒	侊	兼	侍	儆	兌	瀘	冝	冷	凬	刕
	刪	劦	勁	勛	匀	匆	匡	卲	厓	厲	叡	叢	咤	咩	哿	喆	坐	坦	埶	
	埈	埇	垓	塚	增	墟	妛	姦	奈	奮	爾	好	妹	孖	寀	甯	寘	寬	尞	岦
	岺	峀	崧	嵓	崎	嵂	嵼	嶸	嶠	巒	弌	弹	彧	德						
	忞	恝	悅	悊	惕	惕	愠	惲	愑	愷	愰	憘	戓	抦	揵	摠	撝	擎	敎	昀
	昕	昻	昉	昱	昞	昤	晥	晗	晙	晴	晳	暑	暑	暲	暲	曹	朗	朗	枚	椙
	栞	桷	柳	桄	棡	椈	楨	榥	榘	槢	樗	橫	橫	欅	欅	欅	欅	欅	汎	汜
	沉	泫	泚	洄	涇	浯	涖	涪	淚	淸	淚	淋	淫	淫	淋	淫	淋	淋	淋	淋
	瀅	濂	瀨	炅	炫	烝	焄	煜	煆	煇	熙	燁	燾	犯						
	狀	猥	猪	獷	珣	珉	珖	珣	珒	琇	珵	琦	琪	琩	琮	瑢	璉	璟	甁	畯
	皂	皜	皞	皛	皦	益	睦	砆	砊	硎	硎	硬	碌	礼	神	祥	禮	福	禛	竑
	竧	靖	竫	箸	精	紹	絜	綷	綠	緒	繒	罇	羨	羽	茐	荀	茂	菇	菶	萠
	葉	蒴	蕓	蕙	蕫	蕭	薰	蘊	蛙	蠣	裵	訒	訑	詹	誧	誾	諟	諸	諶	譓
	賜	賴	贐	赶	赳	軏	迓	逸	違	郎	都	鄉	鄧	釚						
	釗	釵	釭	釮	鈔	鈔	鉛	鈐	鈔	鈺	鉀	鈑	鉉	鉤	鉑	鈸	鉤	銑	鉤	鉤
	銀	銷	鋥	鋳	鑄	鋳	鋳	鋼	錫	錡	鑿	錚	錞	錦	錄	錢	鍛	鍗	鍮	鍛
	鏞	鏸	鏡	鑠	鑭	閒	隆	隣	隣	隴	靈	靈	靈	靈	靑	靖	顗	顥	飯	
	飼	餧	館	馞	驎	高	髙	魚	魚	魚	魚	魚	魚	鳥	鳥	鶴	鷗	黑	i	ii
	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	x	¬	¦	'	"								
半角文字	。	「	」	,	ヲ	ァ	ィ	ゥ	ェ	ォ	ャ	ュ	ョ	ッ	ー	ア	イ	ウ	エ	オ
	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ス	セ	ソ	タ	チ	ツ	テ	ト	ナ	ヌ	ネ	ノ	ハ
	ヒ	フ	ヘ	ホ	マ	ミ	ム	メ	モ	ヤ	ユ	ヨ	ラ	リ	ル	レ	ロ	ワ	ン	゛
	゜																			

表－3　原稿作成に使用してはいけない文字（Macintosh）

文字種類	本文に使用してはいけない文字																			
特殊文字	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳
	❶	❷	❸	❹	❺	❻	❼	❽	❾	(1)	(2)	(3)	(4)	(5)	(6)	(7)	(8)	(9)	(10)	(11)
	(12)	(13)	(14)	(15)	(16)	(17)	(18)	(19)	(20)	Ⅰ	Ⅱ	Ⅲ	Ⅳ	Ⅴ	Ⅵ	Ⅶ	Ⅷ	Ⅸ	Ⅹ	i
	ii	iii	iv	v	vi	vii	viii	ix	x	㎜	㎝	㎟	㎠	㎤	m	㎡	㎥	㎞	㎢	mg
	g	kg	cc	mℓ	dℓ	ℓ	kℓ	ms	μs	ns	ps	℉	mb	HP	Hz	KB	MB	GB	TB	
	㍑	㍍	㍉	㍗	㍻	㍼	㍽	㍾	㍿	㍰	㍱	㍲	㍳	㍴	㍵	㍶	㍷	㍸	㍹	㍺
	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸
	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸
	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸
	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸
	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸
	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸
	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸
	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸
	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸
	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸
	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸
	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸
	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸
	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸
	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸
	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸	㍸
半角文字	｡	｢	｣	､	ｦ	ｧ	ｨ	ｩ	ｪ	ｫ	ｬ	ｭ	ｮ	ｯ	ｰ	ｱ	ｲ	ｳ	ｴ	ｵ
	ｶ	ｷ	ｸ	ｹ	ｺ	ｻ	ｼ	ｽ	ｾ	ｿ	ﾀ	ﾁ	ﾂ	ﾃ	ﾄ	ﾅ	ﾇ	ﾈ	ﾉ	ﾊ
	ﾋ	ﾌ	ﾍ	ﾎ	ﾏ	ﾐ	ﾑ	ﾒ	ﾓ	ﾔ	ﾕ	ﾖ	ﾗ	ﾘ	ﾙ	ﾚ	ﾛ	ﾜ	ﾝ	ﾞ
	ﾟ																			

8. 論文・報告の区分，題目，著者名，所属先，要旨，キーワード等の書式（書式例参照）

(1)　論文・報告の区分

論文・報告の**区分**は，第 1 ページの 1 行目に左寄せで記載する。フォントは MS ゴシックとし，大きさは 14 ポイントとする（**表－4** 参照）。

また，投稿締切後は，「論文」，「報告」の**区分**の変更ができないため，投稿の際は原稿と入力内容が同じであるかどうかを必ず確認すること。

(2)　題目

題目は簡潔で，内容を的確に表現するもので，55 字以内（英文題目は半角 130 字以内）とすること。副題をつけたり，（その 1）（その 2）…としたり，商業宣伝となるようなものは認められません。第 1 ページ 1 行目の「論文・報告の**区分**」に 1 文字空けて記載する。フォントは MS ゴシックとし，大きさは 14 ポイントとする（**表－4** 参照）。題目に使用してはいけない文字は，本文と同じとする（**表－2**，**表－3** 参照）。題目が 1 行に収まらない場合は，1 行目の右端まで書き終えた上で 2 行目の左端から 4 文字目から続きを書き出すこと（別紙テンプレート参照）。

(3)　著者名

著者名は，題目から 1 行空けて，中央揃え（センタリング）で記載する。コンクリート工学講演会での講演者を筆頭著者とすること。フォントの種類，色，大きさ，および，使用してはいけない文字は，本文と同じとする（**表－2**，**表－3**，**表－4** 参照）。著者と所属とは，各著者の右肩に上付き文字で対応づけ，＊（アスタリスク）＋数字で示すこと。

なお，著者の全体数は 4 名以内とし，連名者は会員外でもよい。また，投稿締切後の著者の変更・増減は認めない。

【記載例】　　新井　安雄[*1]・神田　真[*2]・佐藤　一[*3]・田中　直人[*4]

表－4　論文・報告の区分，題目，著者名，所属先，要旨，キーワード等に使用する文字のフォントおよび大きさ

	フォントの種類	文字の大きさ
論文・報告の区分	MS ゴシック	14 ポイント
題目	MS ゴシック	
著者名，所属先	MS 明朝	9 ポイント
	Times New Roman, Symbol	
要旨*，キーワード*	MS 明朝	
	Times New Roman, Symbol	

［注 1］文字の色は黒とする。

［注 2］　＊　書き出しの「**要旨：**」および「**キーワード：**」のみ MS ゴシックとする。

(4)　所属先

所属先は，各著者の右肩に付した*（アスタリスク）＋数字に対応する脚注とし（上付き文字としない），「所属機関　所属部署　肩書　学位　会員表示（括弧書き）」を示すこと。なお，会員外の連名者の会員区分表示は，なにも記載しないこと（下記* 4 参照）。フォントの種類，色，大きさ，および，使用してはいけない文字は，本文と同じとする（**表－2**，**表－3**，**表－4** 参照）。

*1 ○○大学大学院　工学研究科○○学専攻　（学生会員）

*2 ○○大学　工学部○○学科准教授　博士(工学)　（正会員）

*3 ○○建設（株）　○○事業本部○○部○○課課長　修士(工学)

*4 ○○省　○○研究所○○研究部○○研究室主任研究員　Ph.D.　（フェロー会員）

［注 1］　法人種別は（株）（有）（一財）（公財）（一社）（公社）等の省略形とすること。法人の省略形の記載には，記号の㈱および㈲ 等は，PDF ファイルでの文字化けの原因になるので使用しないこと（**表－2**，**表－3** 参照）。法人名は正式の名称で表示し，JR，NTT，NEXCO 等の“通称”は用いないこと。

［注 2］　正会員のうち，名誉会員，終身会員，フェロー会員の称号が贈られているものは，会員表示にこれらの称号を表示してもよい。会員外の場合，会員表示には何も表示しない。なお，団体会員の組織に所属するものも，個人会員でない場合，会員外とする。

(5)　要旨

要旨は，論文の内容と結論とを最も簡潔に伝え，しかも論文中に含まれるすべての新しい情報に言及するようにし，序論の一部ではないことに注意しなければならない。要旨の表現に対する根本的な要請は，論文の主題についてかなりの程度の知識をもっている読者であれば，本文を見ないで要旨だけを読んでも理解できるように書くということである。

したがって，広く使われていない略記法，記号，術語を使ってはいけない。また，本文中の式，図，表，文献などは引用すべきでない。式を引用する必要があれば式そのものを書くこと。

要旨は，著者名から 1 行空けて書き始め，1 段組とする。また，左右両端を 2 文字ずつ空けて記載し，長さは，4 行から 6 行（150 字から 270 字）とする。

フォントは，見出しの「**要旨：**」のみ MS ゴシックで記載し，文章のフォントは MS 明朝とし，色，大きさ，および，使用してはいけない文字は，本文と同じとする（**表－2**，**表－3**，**表－4** 参照）。

(6)　キーワード

キーワードは，要旨の次の行に記載し，1 段組とする。また，左右両端を 2 文字ずつ空けて記載し，1

行以内に収まる語数をカンマ「,」で区切ること。

見出しの「**キーワード**:」のみ，MS ゴシックで記載し，それに続くキーワードのフォントは MS 明朝とし，色，大きさ，および，使用してはいけない文字は，本文と同じとする（**表－2**，**表－3**，**表－4** 参照）。

9. 本文の書式

本文は，キーワードのあとに 1 行空けて記載すること。本文のフォントの種類，色，大きさは，**7. 原稿の書式**および**表－1** を参照のこと。また，**表－2** および**表－3** に示した文字は，本文に使用してはならない。本文は 2 段組とし，以下の[**例**]のように章，節の見出しは左端から書き出し，項の見出しは左端から 1 文字空けて書き出す。また，章，節，項の番号のあとには半角スペースを空けて見出しを記載し，見出しだけで 1 行とること。なお，章，節，項の見出しは，数字も含めて MS ゴシックとし，数字は半角とし，文字の大きさは 9 ポイントとすること。見出しに使用していけない文字は，本文と同じとする（**表－2**，**表－3** 参照）。

各章の見出しの上側は 1 行空けること。節・項の見出しの上側は空けないこと。また，文の区切りにはカンマ「,」を，文末には句点「。」を使用すること。

本文の文末は，参考文献を記載し，左・右の段を揃えて書き終えるように作成すること。したがって，参考文献の後に図・表・写真は配置しないこと。

[例]

（章） 1. ○○○○○○

（節） 1.1 ○○○○○○

（項） (1) ○○○○○○

見出しの字体は数字も含めてゴシック体

10. 数式

極力簡潔にまとめ，式は 3 字空けてから書き出す。式の番号は半角にて(1)，(2)，(3)と表示し，式の最後に右寄せにして記す。文中での呼称は，式(1)，式(2)とする。数式に使用していけない文字は，本文と同じとする（**表－2**，**表－3** 参照）。また，式と式番号との間にはリーダを付けないこと。

[例]

$$y = a \cdot x^2 + b \cdot x + c \qquad (1)$$

11. 単位

SI 単位とする。

12. 図・表・写真の配置と作成方法

(1) 図・表・写真は，本文の引用箇所に近いところに配置すること。しかし，参考文献の後（文末）には配置しないこと。

図・表・写真は，**表－6**，**図－1** に示すようにページの幅一杯または段の幅一杯に配置し，これらの左右に文章を記載しないこと。また，本文との間に 1 行もしくはそれ以上の空白行を設けること。また，図・表・写真を続けて配置する場合も 1 行もしくはそれ以上の空白行を設けること。

(2) 内容上どうしても同一ページに載せる必要がある場合を除き，図表のみのページを作ることのないよう，割付に配慮すること。

(3) 図および写真にカラーを使用してもよいが，必ず線・点線や写真が判読できるか確認すること。

特に薄い色（例えば，黄色，緑色，水色）に気を付けること。

(4) 原稿に貼り付ける写真の解像度や色数は，原稿のファイルサイズに影響するので，必要最小限の解像度，色数にとどめること。

(5) 作成した PDF ファイルに画像パスを表示させないように加工すること。

(6) 著作権のある図・表・写真を借用する場合は，事前に原著者および発行所から，論文・報告への転載と電子公開への再転載の許諾を，投稿者の責任において得ておくこと。また，その出典を参考文献の記載方法に従い明記すること。

13. 図・表・写真の大きさとタイトル

(1) 図・表の大きさは，**図－1** と**表－6** を参考に作成すること。

(2) 図・表・写真の番号とタイトルは，MS ゴシックの和文（**図－＊ 和文**）もしくは Times New Roman の太字の英文（**Fig.＊ English**）で統一すること。文章中の引用においても図・表・写真は，番号も含めて MS ゴシックの和文（**図－＊**）もしくは Times New Roman の太字の英文（**Fig.＊**）で統一すること。タイトルおよび文章中に引用する文字のフォントの種類，色，および大きさは**表－5**の通りにすること。なお，タイトルに使用してはいけない文字は，本文と同じとする（**表－2**，**表－3** 参照）。

(3) 図・表・写真は，本文と区別できるように，番号・タイトルを含む領域の上下を本文から 1 行もしくはそれ以上の空白行を設けること。また，図・表・写真を続けて配置する場合も 1 行もしくはそれ以上の空白行を設けること。

(4) 図・写真の番号・タイトルは図・写真（位置）の下に，表の番号・タイトルは表の上に記入すること。

(5) 図・表・写真に使用する文字のフォントの種類，色（黒），および大きさ（7 ポイント以上とするが，本文と同一の 9 ポイントが望ましい）を**表－5** に示す。使用してはいけない文字は本文と同じとする（**表－2**，**表－3** 参照）。図・表中の線の太さは，**図－1** および**表－6** に示す程度とするのが望ましい。

表－5　図・表・写真に使用する文字のフォントおよび大きさ

<table>
<tr><th colspan="2"></th><th>フォントの種類</th><th>文字の大きさ</th></tr>
<tr><td rowspan="2">タイトルや文章中の引用</td><td>和文表記
（数字も含む）</td><td>MS ゴシック</td><td rowspan="2">9 ポイント</td></tr>
<tr><td>英文表記
（数字も含む）</td><td>Times New Roman の強調字体(bold)</td></tr>
<tr><td colspan="2" rowspan="2">図・表・写真の文字</td><td>MS 明朝，MS ゴシック</td><td rowspan="2">7 ポイント以上とするが，本文と同一が望ましい</td></tr>
<tr><td>Times New Roman, Arial, Helvetica, Symbol</td></tr>
</table>

［注 1］文字の色は黒字とする。

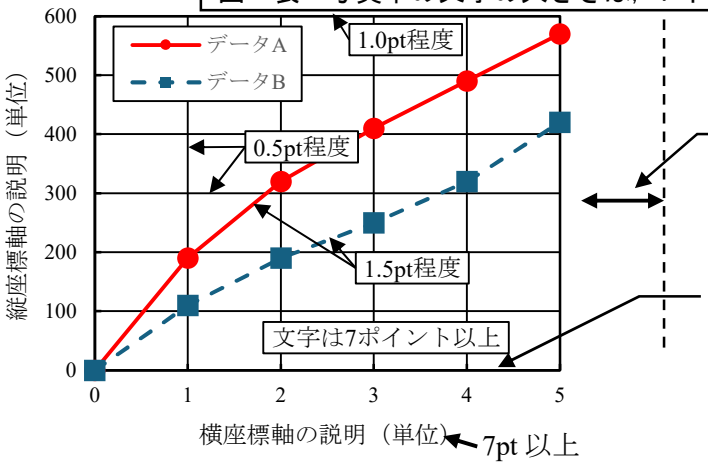
表－6　表の作成例

粗骨材の最大寸法 (mm)	スランプ (cm)	水セメント比 (%)	空気量 (%)	細骨材率 (%)	単位量(kg/m³)				
					水 *W*	セメント *C*	細骨材 *S*	粗骨材 *G*	混和剤 *A*
20	8	47	4	35	150	319	650	1217	0.798
40	8	44	4	34	153	348	621	1210	0.870
40	8	44	4	34	153	348	621	1210	0.870

（表の罫線の太さは 0.5pt 以上とする）

図・表・写真は，一枚または複数枚でページ幅一杯に配置すること

図・表・写真中の文字の大きさは，7 ポイント以上とすること



図・表・写真の左右に中途半端な文章を記載しないこと

図・表・写真中の文字の大きさは，7 ポイント以上とすること
（文字の大きさを 7 ポイント以上維持するよう，必要最小限の情報に選別すること）

図－1　図の作成例

図・表・写真は，ページ幅または段幅一杯に配置し，中途半端な文章を記載しないこと

14. 参考文献

(1)　参考文献は，投稿締切時点で閲覧可能なもの（発行済み，公開済み）に限る。発行されていない（投稿中，査読中，印刷中等）論文・報告は引用してはならない。また，参考文献に記載した文献は，本文で必ず引用すること。

(2)　参考文献の見出しは，「**結論**」あるいは，「**まとめ**」のあとに MS ゴシックで「**参考文献**」と記載する。また，フォントの大きさは 9 ポイントとする。

(3)　参考とした文献名のフォントは，本文と同じ MS 明朝あるいは Times New Roman とし，大きさは 9 ポイントとすること。また，使用順に 1)，2)のように番号をふり，まとめて掲げること。

(4)　文献番号は，本文中または引用した図・表・写真のタイトルの最後に，上付数字で [1),2),3)…]のように明記する。

参考文献は本文の文末に記載し，左・右の段を揃えて書き終えるようにすること。

(5)　記載方法

a) 論文等の場合

著者名：題名，誌名，Vol.，No.，掲載ページ，発行年月の順とする。

b) 単行本の場合

著（編）者名：書名，発行所名，掲載ページ，発行年の順とする。

c) 和文原稿の著者名は必ずフルネームで記す。また，著者が 5 名以上の場合には，筆頭著者以外を「ほか」として省略してもよい。

d) 欧文文献の著者名は，姓を先に記し，名はカンマのあとにイニシャルで示す。また，著者が 4 名以上の場合には，筆頭著者以外を et al.として省略してもよい。

e) 発行年月

和文原稿の場合，西暦に統一して，1988.11， 1991.2 のように記す。欧文文献では，Nov. 1988, Feb. 1991 のように記す。

f) インターネットの掲載

インターネットのタイトル（入手先）：URL（閲覧日：2016 年 11 月 6 日）のように記す。

見出しの**参考文献**のみゴシック体

［記載例］

参考文献

1) 小林一輔，魚本健人，嶋文雄：コンクリート混和剤としての高炉水砕スラグ粉末の品質がコンクリートの圧縮強度ならびに乾燥収縮に及ぼす影響，コンクリート工学，Vol.17，No. 5，pp.87-95，1979.5
2) 大津政康，鎌田敏郎，山田和夫，永山勝：コンクリート構造物の診断のための非破壊試験方法研究委員会報告, コンクリート工学年次論文集，Vol.23, No.1, pp.35-40, 2001.6
3) 岡田清, 六車熙編:コンクリート工学ハンドブック, 朝倉書店, 1981
4) Malhotra, V.M.:Superplasticized Fly Ash Concrete for Structural Applications, Concrete International, Vol.8, No.12, pp.28-31, Dec. 1986
5) Collins, M. P. and Mitchell, D.:Shear and Torsion Design of Prestressed and Non-Prestressed Concrete Beams, PCI Journal, Vol.25, No.5, pp.32-100, Sep./Oct. 1980
6) コンクリート工学年次大会 2027 よくある質問：https://pub.confit.atlas.jp/ja/event/jci2027/content/faq（閲覧日：2026 年 11 月 6 日）

文字の大きさは 9 ポイント

15. PDF ファイルの作成および注意事項

PDF ファイル作成時の注意事項を以下にまとめる。詳細については，ホームページの PDF 作成方法を参照のこと。なお，指定以外の変換ソフトを使用し，論文集の加工に不具合（PDF が開かない，図・表が崩れるなど）が生じた場合は，投稿者の責任とする。

(1) フォントの埋め込み

Adobe Acrobat DC（アドビシステムズ社）以降を使用し，全てのフォントの埋め込みをして作成した PDF ファイルとする。詳細は，ホームページの PDF 作成方法を参照のこと。

(2) Acrobat Reader について

Acrobat Reader は，PDF ファイルに変換することはできない。

(3) PDF ファイルの容量

PDF ファイルの容量は，2.0MB 以下とし，これを超えたものは受け付けない。PDF ファイルが 2.0MB を超えた場合の対策としては，

a) PDF ファイルへの変換時の「カラービットマップ」もしくは「グレイスケールビットマップ」の解

像度（デフォルトは，72dpi）の設定を小さくする。詳細はホームページの PDF 作成方法を参照のこと。

b) 原稿に貼り込んだ写真の解像度および色数を小さくする。写真を白黒にする。写真を原稿に貼り込んだ後に縮小しない。

(4) 禁止する設定

a) PDF ファイルに，セキュリティ（文書パスワード，セキュリティパスワード，印刷，文書の変更，テキストとグラフィックス選択，注釈とフォームフィールドの追加と変更）の設定をしないこと。設定の確認方法および解除のしかたは，ホームページの PDF 作成方法を参照のこと。

b) PDF ファイルの「開き方の設定」を，初期表示は「ページのみ」を選択し，「しおりとページ」および「サムネールとページ」は選択しないこと。また，「ウインドウオプション」および「ユーザーインタフェイスオプション」の項目はいずれもチェックをしないこと。設定の確認方法および解除のしかたは，ホームページの PDF 作成方法を参照のこと。

(5) PDF 変換後の必須確認事項

a) PDF ファイル変換後，全てのフォントが埋め込みされていることを必ず確認すること。確認方法の詳細については，ホームページの PDF 作成方法を参照のこと。

b) 図および写真は，カラーを使用してもよいが，必ず色や写真が判読できるか確認すること。なお，WEB 論文集は，投稿者自身で作成された最終・修正原稿の PDF ファイルが掲載される。

c) PDF ファイルへの変換後に印刷して，変換前の原稿とイメージが変わっていないかを必ず確認すること。特に，PDF ファイルへ変換後にページ数が 7 ページ以上に増えている場合があるので，注意すること。

16. 審査用原稿の締切りおよび提出方法

審査用原稿は，2026 年 12 月 1 日（火）10：00 より 2027 年 1 月 13 日（水）15：00 までの期間に，ホームページより PDF ファイルの形式で提出すること。それ以外の方法での提出は一切受け付けない。締切りの前日および当日は，原稿受付システムが混雑し，投稿に時間がかかることが予想されるので，早めに提出することを推奨する。

なお，これに遅れた場合は，如何なる理由（例えばパソコンの故障，回線の異常など）があっても原稿を受け付けないので，期限を厳守すること。

また，投稿締切後の著者，題目，区分（論文・報告）の変更は，入力ミスであろうと対応できないので注意すること。

提出方法の詳細については，年次大会 2027（札幌）のホームページを参照のこと。

［注］ (1) 原稿提出前に，原稿チェックシートで原稿の体裁を確認すること。

(2) 提出原稿の PDF ファイルは，圧縮処理をしたファイル等で送付しないこと。

(3) ホームページの原稿受付システムで原稿を送付する際に，WEB 論文集内の検索データベース作成のため，提出原稿の要旨およびキーワードを投稿画面上に入力する必要がある。

17. 最終原稿，修正原稿，修正報告書の締切りおよび提出方法

審査結果が「採択」の場合は，最終原稿と修正報告書を，「条件付採択」，「再査読」の場合は，修正原稿と修正報告書を **2027 年 3 月 16 日（火）15:00 より 2027 年 3 月 30 日（火）15:00 まで**の期間に，年次大会 2027（札幌）のホームページより PDF ファイルの形式で提出する。締切りの前日および当日は，原稿受付システムが混雑し，投稿に時間がかかることが予想されるので，早めに提出することを推奨する。なお，これに遅れた場合は，如何なる理由（パソコンの故障，回線のトラブルなど）があっても原稿を

受け付けないので，期限を厳守すること。提出方法の詳細についても年次大会 2027（札幌）のホームページを参照のこと。

［注］ (1) 「修正報告書」は，上記アドレスからダウンロードしたファイルを使用すること。

(2) 原稿提出前に，原稿チェックシートで原稿の体裁を確認すること。

(3) Adobe Acrobat DC（アドビシステムズ社）以降を使用し，全てのフォントが埋め込まれているか，PDF ファイルを確認すること。

(4) 提出原稿の PDF 形式のファイルは，圧縮処理をしたファイル等で送付しないこと。

(5) 査読委員会から指摘された修正事項を満たしていない場合，指摘事項以外に大幅な変更が加えられた場合，修正したことにより登載することが適当でないと明らかとなった最終原稿ならびに修正原稿は，「不採択」となることがあるので注意すること。

(6) 修正原稿の要旨およびキーワードを，審査原稿のものから変更した場合は，修正原稿を投稿する際に，投稿画面上の要旨およびキーワードも修正すること。

(7) 査読委員会からの指示により，原稿の「**区分**」や「題目」を修正する場合には，修正する旨を事前に事務局まで報告すること。

18. 注意事項

(1) 筆頭著者の連絡先・所属（住所，電話番号を含む），連名者の所属が変更になった場合は，速やかに投稿画面上の連絡先変更受付ページで申込み内容の変更を行うこと（随時受付）。これを怠ると，著者に必要な情報(採否，参加登録案内，開催案内等)が届かず，講演できないこともあるので注意すること。

(2) 採択された論文・報告は，第 49 回コンクリート工学講演会で筆頭著者が講演すること。筆頭著者は，第 49 回コンクリート工学講演会が行われる年次大会参加費と 2027 年度の年会費を必ず納入すること。

(3) 大会参加費は，「会員・一般」，「会員・フェロー」，「会員・学生」に分かれている。「会員・学生」とは，大会参加費を納入する 5 月の時点で，学生証の提示ができることが条件である。したがって，筆頭著者が投稿時に学生であっても，3 月に卒業・修了して 5 月に学籍を有していない場合は，「会員・一般」となる。なお，大会参加費は，学会誌 4 月号あるいはホームページに掲載する。

(4) 講演会での講演者は，急病等の特別の場合を除き，筆頭著者に限定する。

(5) 原稿作成に関し，不明な点は年次大会 2027（札幌）のホームページの FAQ を参照のこと。

(6) FAQ を見ても不明な点がある場合および執筆要領に関する問合せ先：

公益社団法人　日本コンクリート工学会
担当：資格事業課　倉持
E-mail: jcinenji@jci-net.or.jp

以　上

［参考資料］

未発表・既発表に関する基本的な考え方

投稿する論文・報告は原則として未発表のものに限ることが「原稿募集要領，執筆要領」に定められている。未発表・既発表に関する考え方は，以下のとおりである。

記

（1）学術論文として刊行・公表することを主目的とし，審査機関の審査を経た論文・報告は，本学会，他学協会等の刊行のいかんにかかわらず，既発表扱いとする。

（2）講演会，研究発表会，コロキウム，シンポジウム，国際会議等で，論文集編集のための独自の組織により，査読を経て登載された論文・報告は，本学会または他学協会等の主催のいかんにかかわらず，既発表扱いとする。

（3）上記（1），（2）の場合でも，新たな知見や視点が加わって再構成された論文・報告，および既に発表されている個々の内容を総合することによりレベルアップされた論文・報告は，未発表扱いとする。

（4）（2）の講演会などで講演を主とし，その梗概または資料として発表されたものは未発表扱いとする。

（5）各研究機関が発行する紀要，年報，所報などに発表されているものは，部内発表と考え，広く周知する必要性から，審査の有無にかかわらず未発表扱いとする。

（6）国，自治体，業界，団体からの委託研究の成果報告書は，未発表扱いとする。

（7）個々の論文・報告が未発表に該当するか否かの判定は，査読委員会で行う。

注記： 上記（3）に該当するとして投稿する場合，未発表に該当するか否かを正確に判定するため，投稿にあたって，著者には既発表の内容がどの刊行物に発表されているかを報告することが義務付けられる。なお，発表言語が異なっても，内容が重複する場合は同一の論文・報告とみなす。

また，既発表関連資料は，公開されたもの（ヘッダ，フッタなどに掲載誌名や掲載年，頁などが記載されたものなど）を投稿論文と同様に投稿画面からアップロードすることとする。

以　上